



見通しのきかない現場では RTK-GNSS が有効！

トータルステーションとも現場データを共有、測量作業を飛躍的に効率化

草野作工株式会社様は、北海道江別市を拠点に「橋梁の草野」として名を馳せ、地域の発展に貢献されている総合建設業者である。同社は今回大規模な河川の改修工事を受注、現況測量の作業を効率化すべく、土木測量に特化した GNSS 受信機 GSX2 と電子野帳プログラム SDR8 シビルマスター+ GNSS オプションを導入した。

見通しのきかない現場 簡単に効率的に測りたい

同社土木部 現場代理人の近藤亮太様に導入経緯から伺った。「弊社は既に自動追尾トータルステーションによるワンマン観測を行っており、作業効率の良さは認識していました。ただ今回の現場は、置き土場で見通しが利かない場所が多く、トータルステーションでは頻りに器械点移動を行わねばなりません。もっと効率よく測量作業を行いたいと考えて、GSX2 を導入しました」。

GSX2 を選んだ理由は、視通の問題だけではない。「本体が小型軽量なことや、全てワイヤレス通信で設定も簡単、機材の少ないシステム構成というのも導入のポイントです。今までの GNSS のイメージは、重いポールを担ぐ、設定が難しいというものでしたが、GSX2 はそんなイメージを覆すものでした」。



現場代理人 近藤 亮太 様

現況測量の効率が 2 倍へ向上 トータルステーションともデータを共有

GSX2 の導入効果については、「見通しの悪い箇所でもトータルステーションのワンマン観測を行った場合と比べると、同じ時間で 2 倍の測点が取れていると思います。視通の確保や器械点移動の必要が無い、加えて機動性も高い。GSX2 には大満足です」。

作業効率だけでなく、観測精度についても GSX2 を評価いただいている。「実は、GNSS に対して 3 次元座標の精度に懸念がありました。今回、使っているうちに、土工に十分な精度が得られていることがわかり、今では土量管理にも使っています」。

そして、電子野帳プログラム SDR8 シビルマスターで操作できるという点にも着目している。「SDR8 シビルマスターは、トータルステーションのワンマン観測で使っていましたから、新しく覚える事も少なく、GSX2 でもすんなり使い始める事ができました。GSX2 とトータルステーションの両方で使えるということは、同じ現場内でどちらの測量機を使っても良い、データが共有できるということですよね？作業に合わせて測量機を選択できるのは、効率化に向けて大きなメリットになりますので、次回の現場ではぜひとも測量機の使い分けを試してみたいと思います」。

最新機器で VE を推進 全社のレベルアップを目指す

同社内で VE (Value Engineering) のリーダー的存在でもある近藤様は、さらに効率化を推進したい考えだ。「最近、最新機器を積極的に使う仲間が増えて、情報交換によりお互いが向上できる環境になってきました。この輪をもっと広げて全社的なレベルアップを図りたいと思います」。



ユーザー名：草野作工株式会社
URL：http://www.kusanosk.co.jp
使用機種：GNSS 受信機 GSX2
電子野帳プログラム SDR8 シビルマスター+GNSS オプション
取材協力：株式会社測機社
URL：http://www.sokkisha.co.jp